

## 沖縄・普天間基地へのオスプレイの配備強行に抗議し撤去を求める

2012年10月1日 日本平和委員会

本日、米軍は、沖縄の県民ぐるみで反対し、県知事も地元宜野湾市長も「絶対反対」の意思を表明しているにもかかわらず、欠陥機オスプレイの普天間基地への配備開始を強行した。

我々は、沖縄県民はじめ国民の命をないがしろにし、民主主義を足蹴にするこの暴挙に対し、満身の怒りを込めて抗議する。

いったい、米国は、いまだに日本を占領地と考えているのではないか。そして、その言いなりになって電話一本で配備を通告し、その強行を容認する日本政府の姿勢は、まさに従属国そのものである。

しかし、このような暴挙に、沖縄県民も日本国民も決して屈することはない。命と人間の尊厳に対する正面からの挑戦に、県民と国民の怒りはいっそう燃え広がらざるをえない。

沖縄県民は、自らの命と安全を守るために、オスプレイの飛行中止・撤去、「世界一危険な基地」普天間基地の撤去を求めて、さらに運動を発展させるだろう。

そして、アメリカの侵略的な海外侵攻能力を高めるためなら、欠陥機の配備と危険な低空飛行訓練を押しつけ、これを日本政府が拒否することのできない日米安保体制に対する疑問と怒りの声を、沖縄と全国で広げざるをえないだろう。

我々は、この沖縄県民のたたかいに固く連帯し、オスプレイ撤去、普天間基地の閉鎖・撤去、そして全国での低空飛行訓練中止を求めて、さらに運動を全国で広げるために奮闘することを、ここに表明する。そして、米軍基地の撤去と日米安保条約の廃棄のために、11月の2012年日本平和大会に向けて、世論と運動をさらに広げるために奮闘する決意を表明するものである。